

第67回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：令和2年9月9日（水） 9:30～11:50
2. 場 所：日本電気協会 4階 C会議室（Web会議併用）
3. 出席者：（順不同，敬称略）*:Web参加
出席委員：阿部主査(NUSC 幹事/東京大学)*，越塚(NUSC 委員長/東京大学)*，
高橋(NUSC 副委員長/電力中央研究所)，波木井(NUSC 委員/東京電力 HD)*，
山田(構造分科会幹事/中部電力)*，山内(原子燃料分科会幹事/東京電力 HD)*，
牛島(安全設計分科会幹事/関西電力)*，
渡邊(品質保証分科会幹事/原子力安全推進協会)，
大浦(放射線管理分科会幹事/日本原子力発電)*，
大平(運転・保守分科会幹事/日本原子力発電)*，都筑(日本電気協会) (計11名)
欠席委員：白井(耐震設計分科会幹事/原子力エネルギー協議会) (計1名)
事務局：三原，須澤，岸本，小幡，葛西，寺澤，境*，景浦*，原*，田邊(日本電気協会)
(計10名)

4. 配付資料

資料67-1	原子力規格委員会 基本方針策定タスク 委員名簿
資料67-2	第66回基本方針策定タスク 議事録（案）
資料67-3-1	第7回原子力規格委員会シンポジウムの取扱い他について
資料67-4-1-1	原子力関連学協会規格に対する事業者の取組について
資料67-4-1-参考	学協会規格に関する今後の事業者の取り組みについて
資料67-4-2-1	2020年 JEAC4111-20XX 特別講習会の実施方針について
資料67-4-2-1	添付資料1 JEAC4111-20XX 特別講習会の開催について
資料67-4-2-1	添付資料2 JEAC4111-20XX 特別講習会 Webによる講習会の実施について
資料67-4-2-2	JEAC4111 発刊スケジュール（概略）について
資料67-4-3	JEAC4206-2016「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」 他1件の技術評価対応状況について
資料67-4-4	民間規格の技術評価の実施に係る計画について
資料67-4-5	令和元年度（第16回）原子力規格委員会功労賞表彰式実施要領（案）
資料67-4-6	検査制度見直し等に伴う規格の制・改定の状況について
資料67-4-7	2020年度 各分科会活動報告
参考資料1	第74回原子力規格委員会 議事録（案）
参考資料2	2019年度活動実績お飛び2020年度活動計画
参考資料3	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料4	2020年度各分野の規格策定活動

5. 議 事

事務局から，本会にて，私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触するおそれのある活動を行わないことを確認した。また，今回のタスク会議は，Web会議併用で進めることを説明し，議事が進められた。

(1) 定足数確認他

事務局から，資料について事前送付していることを説明した。出席委員は，Web参加が8名，会場参加が3名の計11名で，決議に必要な条件(委員総数の3分の2(8名)以上の出席)を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録確認

事務局から、資料 67-2 の前回議事録については、事前に配布し確認していただいている旨説明があり、承認された。

(主なご意見・コメント)

- ・外部からの質問の対応についてはどのような状況か。
- 技術評価に関する質問については、技術評価に関することであり電気協会からは書面で回答する性質のものではないとして回答したが、再度問い合わせが来ている。これに関しては、技術評価会合の状況を見て回答することとしている。また、破壊靱性検討会での JEAC4201 の改定内容について質問をいただいき、検討会には回答作成をお願いしている状況であるが、規格の検討進捗の関係から回答作成が遅れており、まだ回答できていない。

(3) 審議事項

1) 第 7 回原子力規格委員会シンポジウムの取扱い他について【議論】

事務局から、資料 67-3-1 に基づき、第 7 回原子力規格委員会シンポジウムの取扱い他について説明があった。

議論の結果、今年度のシンポジウムについては中止とし、来年度のテーマ等については今後議論し決めていくこととなった。

(説明内容)

- ・今年度のシンポジウム開催は中止とすることで、今後調整を図りたい。最終判断は 10 月初旬とする。
- ・来年度のシンポジウム開催は、電気協会 100 周年事業、オリンピック開催を考えると 6 月の開催は難しく、秋ごろを想定している。
- ・事務局としては、シンポジウムのテーマを、震災後の 10 年を総括するようなテーマに変更したい。

(主な意見・コメント)

- ・10 年目の節目なのだが、秋の開催でいいのか。悩ましいのだが 10 年を総括するのであれば、早めに年度が変わってすぐの 4 月に実施するとか、場合によっては今年度の 3 月に実施するとかではないかという気がする。
- ・少し話は広がるが、電気協会で策定する民間規格の戦略を担うのがこのタスクであるという理解で正しいか。我々は何時戦略を立てているのか。
- 本来であれば基本方針を作る時点で検討するものと思う。
- ・もう少し体系的に戦略を練ることができる場を作った方が良く考えていて、タスクの年間スケジュールを見ると、シンポジウムにかなり時間を取られているので、十分な戦略を検討する時間が無いという気がする。それを考えると、新型コロナでシンポジウムが中止になったのは良いきっかけになったと考える。シンポジウム開催を隔年にしたらどうか。残りの年は戦略を検討するのに使うので、確保させてもらいたいという提案はできないか。
- ・JEAC4111 を策定するにあたって、どういう戦略で臨むかというところをしっかりと検討すべきであったと反省している。今話があった、原子力規格委員会としての戦略というか、明示的なものがあったとしても良い気がする。
- ・規格が出てくるプロセス、提案されるプロセスを見ていると、ボトムアップ型が多く、トップダウン型になっておらず、結果的に作れていないというのがあり、今回 ROP の話があり、燃料関係はかなり規格の提案が充実したことになるが、あの時に、こういう規格を作った方が良くということ色々な方と話をした。結果的にその時話したような内容の規格が次々と出てきたということもあり、燃料分野では ROP 対応がうまくできたと考えている。その意味で、今後の状況変化に対して民間規格がどうあるべきかというところを、電気協会としての戦略を練る場を作成しておかないといけない。
- ・また、規格類協議会で、3 学協会の規格の戦略を作ろうという話があったが、なかなか上手く出来ていない。原子力学会の様子と電気協会の様子を見ている限り、電気協会側からコミットできるも

のというのは相当あるはずだと考えるが、なかなかできていない。タスクがそれを担うものであるなら、もう少しそこに時間をかける余裕をもらいたい。そのため、大きな負荷になっているシンポジウムについては、隔年開催で頻度を減らし、戦略は毎年練り続けるものでもないの、隔年で検討するというので、シンポジウムと戦略検討を交代しながら実施するのは問題にならないと考える。

- ・今年度のシンポジウムの中止は仕方が無いと考える。来年度資料に書いてある案ということで計画していったらよいと考える。来年、福島から10年ということで原子力学会も色々と考えているので、来年なら10周年かと思う一方、規格という部分で今年度のような地道な活動テーマでもあってよいと思う。今後、テーマ案については皆さんの意見を聞いて決めていくと良い。

【今年度のシンポジウムの中止について】

- ・今年度のシンポジウム中止に関しては、各委員から意見はあるか。
- ・今年度のシンポジウム中止に関しては委員から意見がないようなので、タスクとして承認する。

【次年度シンポジウムのテーマについて】

- ・次年度シンポジウムのテーマ「震災後の10年を総括するようなテーマ」について、何かご意見はあるか。確認だが、震災後の10年で規格において変わったのは何か。
- 規制庁が新しい規制基準を作成したので、それに対応したものを規格化した。もう一つがIRRSを受けて新検査制度が始まっているので、これに対応した規格もある。もう一つが電気協会として自主的に対応した。以上の3点だと考えている。
- ・内的要因は何か。
- 分科会により異なるとは考えるが、分科会委員が検討してこの様な規格が必要とか、情報収集の中でこのような規格があった方が良いとかいう新知見を反映したものであると思う。
- ・震災後の10年間を総括するテーマを実施する。震災後電気協会がこう変わりましたということをはっきりさせるシンポジウムにするのか。
- まずはそこを整理し、もう一つはシンポジウムを6回開催しているので、シンポジウムの趣旨も福島事故を受けて、規格はどうあるべきなのかというところから出発しているので、シンポジウムを振り返り、これまで出た課題とか取り込みがどうなっているのかというフォローもしたらよいかと考えている。それから今後の取組だが、各学協会の規格を再構築しているので、その内容を紹介しながら、今後の10年も見据えながら議論していくことも考えている。
- ・震災後の10年間どのように変わったのか、委員長のご意見はどうか。
- 3学協会でも2回ほど宣言を出しており、それに沿って電気協会は動いているのだが、一番重要なことは、原子力学会でも、政府事故調査委員会でも、福島事故の原因と教訓の中に安全性に対する実質的なコミットメントというか、それを非常に重視してやらなくてはならないと書いてある。民間自主で安全に対して責任を持ってやらなくてはならないということ具体的に考えると、学協会規格というのは極めて役割が大きいと考える。新規制基準対応とか新検査制度も含めて事故後の教訓ということでは、自主的安全性向上にどれだけ規格が貢献するかということだと考える。学会の提言に対して、どこまで実現したかの多くは、実際に規格が出来たかということも大きくて、福島事故全体の反省の中でも、学協会規格というのは、すごく役割が大きいと思う。
- そういう総括の中でやる方が、規格だけで福島事故反省というものもあるかもしれないが、原子力全体として考えないとなかなか話が大きくなり、電気協会だけで話して大丈夫かということはある。
- ・震災後の10年を総括しますとして電気協会のシンポジウムでやると言った瞬間に、それは電気協会が10年でどう変わったかを総括することになる。そうすると、電気協会がどこまで自主的に変わっているのかがはっきりと見えるようなものが無いのであれば、何も総括するものが無いというのと一緒だし、外的要因によりここまで変わりましたというのは、シンポジウムで言うことではないと考える。
- 震災後は、福島事故をテーマとしたシンポジウムを続けてきた。そこに立ち返り、もう一度反省してみるというのも、悪くは無いと考える。もっとも直接的というか、震災10年を総括することによってシンポジウムを行うということは、電気協会としても規程類を整備し組織として改善するこ

とも他の学協会と打ち合わせて実施したので、話を大きくしなければ、電気協会が変わったところとか、電気協会がやったことを総括すれば、テーマとしては悪くは無いと考える。

- ・節目ということで、なにがしかの意見表明はした方が良くと考える。その中で外的要因も含めて、電気協会は自主的要因も含めて、電気協会はこのように変わってきましたということをアピールする場として、このシンポジウムを捉えたいということなのかと思う。
 - ・規格委員会の10年を考えると、我々としては例えば JEAC4111, JEAC4209 において、原子力安全のための自主的取り組みというテーマで、規制にとらわれずにリスク情報活用とか、コンフィグレーション管理とか、CAP システムもそうだが、自主的活動ということで活動してきたつもりでいるので、そういう意味では自主的にどう変わったのかということで、それが何もないことではないと考える。各分科会で努力していることがあるので、それなりに総括する価値はあるかと考える。
 - ・10年というのは節目だし、それと電気協会はどう取り組んできたかということ総括するのは良いと考えるが、文字に起こして共通認識をもう一度確認することをやってみても良いかと考える。大きな方向は良いかと考えるが、どういうことが言えるのかということ我々が共有するのが良いかと考える。
 - テーマがものすごく大きいので、ちゃんとグランドデザインを描いて、テーマをそこから絞り込んでいくことをしないと、発散したシンポジウムになり、分からないまま終わるので、ここはしっかりと絞り込んでいかないといけない。時間をかけて検討する必要がある。そういう意味で、本日は頭出しをしたということで良いきっかけになったと考える。
 - ・今後議論をしていくという話だが、全体の総括は、原子力学会とかに乗っかってしまい、極端に言うと、前回の第7回シンポジウムの計画の中で10年の節目を入れることでも良いと考える。とすると、10周年をテーマに入れるか否かは今後の話ということで良いか。
 - それで良いと考える。意識の上で10年というものが残っており、それを意識した上でテーマを絞り込んでいくという流れで良いかと考える。
 - ・資料 No. 67-3-1 の2. 来年度の開催についてで、6月15日に日本電気協会100周年事業とあるが、この場で福島事故後の原子力規格委員会の変遷の発表があるのかと思ったのだがどうなのか。そうすると、シンポジウムの内容と大分内容が重複する可能性があるのではないか。
 - 日本電気協会100周年事業では、電気協会全体の振り返りを行うため、原子力に特化していないので、大きく重複することは無いと考えている。
 - ・テーマについてだが、3学協会の最初のステートメントは、なぜ学協会規格で福島事故が防げなかったのかという反省の基にできている。3学協会の最初のステートメントを受けて電気協会としてどう活動してきたのか、今後どう活動するのかというテーマだと良いのではないかと考える。
 - 今度の規格類協議会でも同様の話が出てくると思うので、その様子を確認し、共同開催の可能性も含め、開催することになったら、事務局として電気協会側のシンポジウムをどうするかということを考えることとしたい。
 - 今年度のシンポジウムの中止の委員への周知については、4月同様に3役の判断で中止ということで、委員会への周知と言う事で良いか。
 - ・原子力規格委員会に報告しておいた方がよい。
 - 資料の「1, 今年度の開催について」を中心に報告用ペーパーを作成し、9月度の規格委員会で報告することとする。
 - ・最初に出た戦略の部分は3役で相談し検討するという事で保留とする。
- 議論の結果、今年度のシンポジウムについては中止とし、来年度のテーマについては今後議論し決めていくこととなった。

(4) 報告事項

- 1) 学協会規格に関する今年度の事業者の取組について【報告】
事務局から、資料 67-4-1-1 に基づき、学協会規格に関する今年度の事業者の取組について報告があった。

(説明内容)

- ・電事連より、各協会規格に関する具体的な取り組みとして
 - ・規格毎に担当会社を決め、学協会の規格作成委員会（電気協会では検討会）に委員又は常時参加者として参加する
 - ・事業者としての学協会規格の計画を学協会へ提示する（10月学協会へ提示予定）等の活動を行うとの連絡があった。
- ・本件の対応で、検討会委員の分科会承認が発生するとともに、各分科会での規格策定の年度計画に影響を与えることも考えられるため周知させていただいた。

(主な意見・コメント)

- ・この資料は電事連クレジットのものか。
→電事連から提示いただいたものである。

2) JEAC4111 特別講習会の実施方法について【報告】

事務局から、資料 67-4-2-1 から資料 67-4-2-2 に基づき、JEAC4111 特別講習会の実施方法について報告があった。

(説明内容)

- ・JEAC4111 の特別講習の実施方法について、電気協会事業推進部での検討結果を紹介する。
- ・事業推進部としては、新型コロナの状況からオンデマンド方式による実施を第一候補として進めたいとの検討結果である。
- ・今後、品証側の普及促進チームと協議し、開催方針を決定する予定である。なお、現時点の JEAC4111 の審議の状況から、発刊は3月頃となる見込みであることから、講習会の実施時期は来年度になる見込みである。

(主な意見・コメント)

- ・リアルタイムではなくオンデマンドなので、一定の期間質問をメールで受け回答するなど、質疑応答に工夫が必要で有る。
- ・品証側として、4月以降に講習会を開催する場合は、新型コロナの状況次第によっては対面式での開催の可能性もあるので、もう少し状況を見て決定したい。

3) JEAC4206 他1件の技術評価対応状況について【報告】

事務局から、資料 67-4-3 に基づき、JEAC4206 他1件の技術評価対応状況について報告があった。

(説明内容)

- ・7/9 第6回技術評価に関する検討チーム会合、8/7 原子力規制庁との面談(電気協会からのコメント提出)を実施
- ・原子力規制庁からは、
 - ・JEAC4206-2016 の適用性を判断するには時期尚早と考える。今後、学協会において技術検討が行われ当該規格が改定された後、再度、技術評価を行うこととしたい
 - ・JEAC4216-2015 は、JEAC4206-2016 にのみ引用されている規格の為、併せて、今後、適用性を確認することとしたいとの見解が示された。

(主な意見・コメント)

- ・本日(9/9)に技術評価の結果が原子力規制委員会に諮られる予定であり、更田委員長のコメント

も出ると思うので注視している。

4) 民間規格の技術評価の実施に係る計画について【報告】

事務局から、資料 67-4-4 に基づき、民間規格の技術評価の実施に係る計画について報告があった。

(説明内容)

- ・ 3 規格の技術評価実施を受け、対応者を選定し、協力依頼を発出した。
- ・ 今後の予定として、第 1 回の検討チーム会合は、10 月 6 日を予定。
- ・ 第 1 回の検討チーム会合では、3 つの規格について、エンドース版からの改定内容の説明の要望が出ており、資料を準備中である

(主な意見・コメント)

- ・ 特になし。

5) 令和元年度 原子力規格委員会 功労賞表彰式について【報告】

委員から、資料 67-4-5 に基づき、令和元年度 原子力規格委員会 功労賞表彰式について報告があった。

(説明内容)

- ・ 令和元年度（第 16 回）原子力規格委員会功労賞の表彰式を、9 月 29 日の原子力規格委員会の冒頭に実施する。

(主な意見・コメント)

- ・ 特になし。

6) 検査制度見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について【報告】

委員から、資料 67-4-6 に基づき、検査制度見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について報告があった。

(説明内容)

- ・ 本年度より、原子力規制検査の運用に関して確認された課題や検査の実施状況等を踏まえた改善策等について、公開の場で意見交換を行う会合が四半期に一度程度開催されることとなった。
- ・ 第 1 回会合に、高橋副委員長が出席した。

(主な意見・コメント)

- ・ 特になし。

7) 2020 年度各分科会活動実績報告

事務局及び委員より、資料 67-4-7 に基づき、各分科会活動報告が行われた。トピックは以下の通り。

a. 安全設計分科会：

- ・ JEAG4612 改定案について、JSME 維持規格、耐震指針等との整合性についてコメントをいただいている。
- ・ JEAC4626, JEAG4607 改定について BWR の審査状況の知見追加を加味して検討中。

b. 構造分科会：

- ・ JEAC4207 改定について、書面投票の結果、保留意見対応により編集上の修正を超える変更が生じた為、次回分科会にて修正後の規格案を審議する事とした。

- ・今年度の技術評価対象である3規格についてプレゼン資料を作成し、順次規制庁に提出する対応を行っている。
- c. 原子燃料分科会：
 - ・ JEAC4212, JEAC4001 について、検査という用語に対して、JEAC4111 に沿った形になっていないといコメントをいただいております、対応を検討中である。
- d. 品質保証分科会：
 - ・ JEAC4111 は原子力規格委員会の書面投票に対するコメント対応を実施しており、10月5日の原子力規格委員会に再上程の予定。
 - ・ 特別講習会については、電気協会側から見解が示されたので、再度9月末に検討する予定である。
 - ・ ワークショップについては、今年度は実施しないことで決定した。
- e. 耐震設計分科会：
 - ・ JEAC4601 と JEAG4601 は、改定期を合わせることで進めてきたが、JEAG4601 については、関連する原子力規制庁の審査ガイド検討遅延のための分科会審議を延期した。
- f. 放射線管理分科会：
 - ・ 10月下旬に分科会を実施する予定。
 - ・ JEAG4610 については、水晶体の管理が来年度から始まることから、来年度の早い時点で指針ができるように検討を進めている。
- g. 運転・保守分科会：
 - ・ JEAC4804 について、コロナ対応で運転責任者の判定が対面で行えず、インタビューや面談をリモートで行うということで実施要領の変更について議論をしている。
 - ・ JEAC4209 での CAP 活動については、JEAC4111 を引用する形となっている。このため、JEAC4111 の改定スケジュールが大きく遅れるような場合は、CAP 活動の記載を補足的に JEAC4209 に記載し、ある程度の時期で JEAC4209 を発刊するかについて、10/5 の原子力規格委員会での JEAC4111 の審議状況を見て分科会で協議する予定である。

(主な意見・コメント)

- ・ JEAC4111 のエンドースの見込みについてはどのようになっているか
- 電事連の話ではあるが、発刊されてもエンドース対象として要請はしないとしている。ただし、JEAC4111 は規制側と事業者側の理解の共通のベースであるということを、規制の中で何らかの位置づけをしていただくことで提案していくと聞いている。
- ・ JEAC4804 について、コロナ対応でできない部分を改定というのみであれば、中間報告というプロセスを踏まなくてもよいのではないか
- 今回の改定では、トピックスとしてはコロナの対応があるが、1F が廃炉になったことにより、経験年数ポイントのカウンターの仕方の変更等もあり、何件かの内容を合わせて改定するため、中間報告というステップを取らせていただくこととしている。

8) 次回のタスク予定について

次回タスク（本会議）	：12月3日（木）13時30分～	電気協会	A会議室（WEB会議併用）
事前説明	：11月17日（火）13時30分～	電気協会	A会議室（WEB会議併用）

以上